

2020 年度

講義科目名称： 日本史学

授業コード： 43016

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
後期	講義	2単位	
曜日時限			
後期： 木曜3限			
配当学科・学年			
文1、教育1、人間1			
担当教員			
馬部 隆弘			
添付ファイル			

授業テーマ	城からみた戦国時代
講義概要	戦国時代といえば、様々な武将が活躍した姿が思い浮かぶ。しかし、その武将のイメージは、小説やドラマによって形作られたものがほとんどである。実際には、正確な人物像を描けるほど当時の文献史料は残されていない。この講義では、武将中心ではなく城という遺構を中心に、その発達過程や地域差などから、戦国動乱の展開と収束について実態に即して考える。
到達目標	城の平面プランを図示した縄張図から、実際の姿を頭の中でイメージできる。 戦国時代から江戸時代に至るまでの社会の変化と城の発展段階について説明できる。
評価方法	平常点60%、テスト40%
フィードバックの方法	毎回配布する用紙に、質問や意見を書いてもらう。次回の授業時に質問に答えつつ、意見を紹介する。
評価基準	縄張図の基本的な作成方法を理解し、戦国時代から江戸時代にかけての城の変化について説明することができる(可)。 縄張図を正確に理解することができ、戦国時代から江戸時代にかけての社会・権力と城の相関関係を正しく説明できる(秀)。
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意	きちんとした出席と受講態度が重要である。 地図や図面の読み込みが苦手な者は事前に練習しておくこと。 自らの意見を積極的に主張すること。
準備学習<予習・復習の時間・内容>	予習は必要としないが、実践的な復習を合計60時間は必要とする。 まず、縄張図の見方・書き方について復習すること。 また、可能であれば、授業で紹介した城を実際に訪れてほしい。
オフィスアワー等	授業終了後および水曜4限
備考・メッセージ	受講者の関心と理解の状況に応じて授業の進度や内容を適宜調整する。 なお、城の平面図を中心に取り扱うので、戦国の武勇伝や派手な天守閣などの話はしません。
ディプロマポリシー	日文：DP1、歴史文：DP1、幼教：DP1、学教：DP1、特支：DP1、人社：DP1、スポ：DP1
科目ナンバリング	日文：LA-E-HU1006、歴史文：LA-E-HU1006、幼教：LA-E-HU1006、学教：LA-E-HU1006、特支：LA-E-HU1006、人社：LA-E-HU1110、スポ：LA-E-HU1106

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	馬部	はじめに	授業の計画と目的を説明することができる。		
2	講義	馬部	学際的な城郭研究	城の研究史について説明することができる。		
3	講義	馬部	縄張図の見方(1)	縄張図の見方について説明することができる。		
4	講義	馬部	縄張図の見方(2)	縄張図の史料価値について説明することができる。		
5	講義	馬部	縄張の発展過程	縄張図の比較から縄張の発展を説明することができる。		
6	講義	馬部	東国大名の城(1)	武田氏領国周辺の城の特徴について説明することができる。		
7	講義	馬部	東国大名の城(2)	後北条氏領国周辺の城の特徴について説明することができる。		
8	講義	馬部	織豊期の城(1)	織豊期の城の特徴について説明することができる。		

9	講義	馬部	織豊期の城（２）	織豊期の城の発展過程について説明することができる。		
10	講義	馬部	古文書からみた戦国期権力と城（１）	古文書の特徴からみた戦国期権力の相違を説明することができる。		
11	講義	馬部	古文書からみた戦国期権力と城（２）	古文書の特徴からみた権力の特徴と城の相関関係について説明することができる。		
12	講義	馬部	江戸時代の城	織豊期の城と江戸時代の城の相違について説明することができる。		
13	講義	馬部	城の地域偏差（１）	辺境地域における特徴的な城の分布について説明することができる。		
14	講義	馬部	城の地域偏差（２）	近畿周辺の特徴的な城の分布について説明することができる。		
15	講義	馬部	まとめ	戦国時代の社会・権力の変化と城の相関関係について説明することができる。		

#### 授業方法

	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義	教室	1	適宜プリントを配付	90分×15